

生物多様性とは？

生物種の多さと、それによって構成されている様々な生態系のバランスが保たれている状態を言いますが、1992年にブラジルで開催された「環境と開発に関する国際連合会議」（地球サミット）で採択された生物多様性条約では、生物多様性を「生態系の多様性」「種の多様性」「遺伝子の多様性」の3つと定義しています。

【生態系の多様性】

地球上には山、川、海、熱帯雨林、自然林、砂漠、生物多様性の概念図湿原、サンゴ礁…など様々な環境があります。これら生態系の多様性の様々な環境があることを「生態系の多様性」といいます。生物は約40億年もの長い時間をかけて進化の過程で、様々な環境（生態系の多様性）に順応するために多様に分化し、それぞれの環境に存在してきました。



宇都宮工場 植樹祭の様様

【種の多様性】

この地球上には、確認されている生物種はざっと200種の多様性万種、未確認のものを入れると3000万種とも言われています。このようにいろいろな生物が存在することを「種の多様性」といい、それらの生物が様々な関わり合いを持って存在しています。



山形工場付近（高畠町）

【遺伝子の多様性】

生物は進化の過程で、変化していく環境に順応するため、暑さに強い個体や乾燥や病気に強い個体など様々な個性を持つことが必要でした。そのため、同じ種の生物であっても生息環境の違いに応じて体の大きさや、行動、器官の発達などに少しずつ違いがあります。このように同じ種の生物でも個体差があることを「遺伝子の多様性」といいます。地球上には、数え切れないほどの生物種が相互に関係を築きながら多様な生態系を形成し、地球環境と私たちの暮らしを支えています。



栃木県日光市の竜頭橋より遠望する中禅寺湖

自然が長い時間をかけ創り出したこのような多様な状態を「生物多様性」と言います。